

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江北 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回り、基礎の力を身につけていく必要がある。 ・複数の記述をもとにしてとらえる問題の正答率が低い。文章をよく読むことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	「話すこと、聞くこと」に関する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	漢字を書く問題において、本校の児童は無回答率が高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回った。 ・記述式の問題形式に対し無回答率が高いなど、記述して答えることに課題がある。
	よくできた問題	・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて自分の考えを書く問題や、目的に応じて自分の考えを明確にしながら読む問題の正答率が低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回った。 ・繰り下がりのある減法の計算ができない児童が2割以上いるなど、算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要がある。
	よくできた問題	末尾の位のそろっていない小数の加法・減法の計算の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	数量関係についての問題は、正答率が低く、無回答率が高かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回った。記述式の正答率が低く、無回答率が高い。
	よくできた問題	・正方形に内接する円の半径について答える問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く問題の正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>・学校のきまりを守り、自分で計画を立てて勉強している。宿題をしている児童の割合は、2年連続100%である。</p> <p>・7割以上の児童が「読書がすき」と答えていて、昨年度を大きく上回った。</p> <p>・「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に、13%の児童が「当てはまらない」と答えている。また、将来の夢や希望をしっかりと持つことのできていない児童が21%いる。自己肯定感を高めていくために、学習の中に体験活動を有効に取り入れ、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが必要である。また、授業の最後に学習内容を振り返る活動を行い、がんばったな、よくできたなという思いを多く持つことが必要である。夢を持ち、夢を形にするために、少しでも具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・国語に関する取組み(読書に関する取組みや、話し合い活動の充実。また漢字の復習など)を進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・規則正しい生活を送り学習を遅らせないために、欠席児童0人が1日でも多くなるよう、病気の予防や安全などに関する早めの声かけや、家庭との連絡を密にするなどの取組みを進めていく。